

(別記様式)

令和5年度 府立田辺高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（ 最終評価 ）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>「人間力ある人づくり」を目指して</p> <p>1 生徒一人ひとりを把握し、多様な組織的な教育活動を個に応じた展開する。</p> <p>2 普通科および工業に関する専門学科の併設を生かした、特色ある教育活動を展開する。</p>	<p>本校は「人間力ある人づくり」を目指して教育活動に取り組んできた。令和4年度は、前年度に引き続き新型コロナウイルス感染症による対応を迫られる機会こそあったが、各分掌部長を中心に連絡・調整を行い、ピフォアコロナに近い形で学校運営を進めることができた。中盤以降は、ウィズコロナ対策を整備し、感染症対策を講じた上で教育活動の継続に努めた。多くの生徒は、限られた教育活動に積極的に取り組み、学力の向上だけでなく、人間力の育成に成果を現わすことができた。</p> <p>1 規範意識等に関する取組について 生徒指導部を中心に、身だしなみ指導や遅刻の根絶等、基本的生活習慣の確立に向けた指導を重点的に取り組んだ。今後も、学校生活全体のあらゆる機会を通して、教職員の一致協力指導の元、粘り強い指導を行い、安心して安全な高校生活を送れるよう、規範意識の確立と授業規律を徹底した教育環境を整備する必要がある。</p> <p>2 進路指導・学習指導について 進路決定状況は、就職においては、本校の強みを生かし、今年度も内定率100%を達成することができた。進学においては、近年の傾向では、早期に進路決定するのではなく、自分の可能性を信じて、推薦入試・一般入試まで最後まで諦めずに受験する生徒が増えつつあったが、今年度は早期に進路を決めたい生徒が多く、一般入試まで粘る生徒が少なかった。一方で、学習指導について、日頃よりきめ細かな指導を心がけ、実践してきたが、途中、意欲をなくす生徒も一部出てきており、中途退学及び転学者数の減少には繋がらなかった。今後も、より細やかな指導が求められる。</p> <p>3 部活指導等本校への帰属意識向上 今年度は自転車競技部が全国大会へ出場し、男子ハンドボール部も近畿大会に出場するなど、近年、全国・近畿で活躍する生徒はでてきているものの、部活動加入率</p>	<p>本校の教育目標である「人間力のある人づくり」のために今年度以下の項目について重点的に取り組む。</p> <p>1 子どもたちの多様な個性と能力を尊重し、愛情や信頼、期待などを土台とした自己肯定感をはぐくむ教育を推進する。また、人権感覚の育成に重点を置くとともに、基本的生活習慣を確立し、生徒が安心して安全な高校生活を送れることができるよう教育環境を整備する。</p> <p>2 放課後を有効活用し、学校生活満足度の向上に向けた取組を推進する。 （1）部活動加入率の増加を目指し、部活動のさらなる活性化を図る。 （2）ICT機器などを積極的に活用し、個別最適な学びと生徒の主体的・協働的な学びを推進するとともに、資格取得に向けた指導や進路指導を押し進める。 （3）面談指導などを充実させ進学・就職ともに強い進路指導體制の構築。</p> <p>3 全校体制でICT活用の研究を進め、魅力ある授業を展開し、学習・指導方法及び評価方法の研究を行い、生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を推進させ確かな学力を育む。</p> <p>4 地域と連携・協働し、地域創生に寄与する取組を推進する。「地域とともにある学校」としての存在感を高め、心身の健全な発達と帰属意識を醸造し、誇りの持てる高校生活を目指す。</p> <p>5 本校の特色ある魅力的な教育活動についての広報活動を積極的に展開し、正しく、広く理解していただくとともに、保護者、中学校、地域等への広報をより一層推進する。</p> <p>6 上記の項目を推進するため、各分掌・教科の連携を図り、全教職員が一体となる体制づくりを行い効果的かつ組織的な教育活動を実践する。</p>

の減少傾向は続いている。様々な機会を使い部活動の意義について理解させ、高校生活の充実を図り、学校生活の満足度のさらなる向上を目指す必要がある。

#### 4 地域連携・広報等について

京田辺市と連携協力に関する協定を生かし、工業に関する専門学科と地元企業との連携事業を、工業科全体のものとして実施した。今年度はリモートではなく、全て対面で実施でき、以前とは形態を変えての実施もあり、生徒の職業観の育成を図ることに大きな成果があった。広報活動では、中学校の進路学習会に出向き参加するなど、本校の特色ある教育活動について正しく、広く理解してもらうための取組を継続して実施した。今後さらに魅力ある教育内容の広報活動を積極的に展開し、中学生に選ばれる学校づくりを進めていきたい。

分掌 教科名	評価領域	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
副 校 長	組織運営	生徒と向き合った生き生きとした教育活動が行える学校作りの推進	部長会議を中心に連絡・調整を密にした学校運営を進める。 適切な勤務時間の管理を行い、総勤務時間の縮減に努める。	A	B	今年度は、ウィズコロナ対策を整備し、感染症対策を講じた上で教育活動の継続に努めた。勤務時間管理については、ノー残業デーの設定や、勤務時間把握ソフトによる、月ごとの個人残業時間の告知などにより啓発を行った。 地域・地元企業連携については、工業科全体のものとして推し進め、一定成果を上げることができた。今後も、生徒の3年間を見据えた綿密な計画のもとで活動を更に充実させていくことが課題である。広報活動については、Instagram、YouTubeなどのSNSを有効活用し、本校の教育活動を広報することに成功し、学校行事などは生徒のスタッフによる発信も行った。今後も更なる工夫を凝らした広報活動を行い、本校の魅力を発信していきたい。
		普通科・工業に関する専門学科の特色ある教育活動の推進と広報活動の充実	普通科・工業に関する専門学科の教育内容の更なる改善と充実に努め、地域や地元企業との連携を、より一層推進する。また、本校の特色ある魅力的な教育活動について正しく広く理解していただくため、保護者、中学校、地域等への広報活動を更に充実させる。	B		
事 務 部	学校運営	企画、立案及び連絡調整	効果的な学校運営に不可欠な予算執行に係る企画、立案に積極的に関与しこれを実行する。	B		コロナは依然、無くなっていないが、昨年に引き続き学校行事も開催でき、授業を基本とする日々の学習活動に支障の無いよう適切な予算が執行が出来た。また、コロナ対策で得た知識を現在も生かされ、効率的な学校運営に大きく携わった。また課題であった、文書等、対教員に関する配布物については、teams等を利用し、知らせることができた。
	文書・ 情報管理	文書事務の効率化と情報管理の適正化	法令・規定に基づいた事務処理を行い、情報の公開、個人情報の保護を意識した情報管理を行う。	A		
	就学支援	充実した高校生活と希望進路達成に向けた支援	在学中の生徒・保護者への支援策の効果的な紹介	B		
	維持管理 及び 学校環境 の整備	安心・安全、学習環境の充実に 向けた取組	老朽化や緊急性を踏まえ効果の高い改善策の検討と実行	B	B	
			緊急事態発生時に柔軟な対応を行うことで生徒の安心・安全確保に努める	A		
		バリアフリーなどユニバーサルデザインを意識した改修を行う。	B			
財務及び 会計	効率的な予算執行と適切な会計 処理	費用対効果を意識した予算執行体制の確保 適時に必要な予算を担保し、学校運営に携わる。	A			

教務部	学習指導	組織的な指導による教科指導の一層の充実	授業・考査を適切に計画し円滑に実施する。 公開研究授業を実施し、指導力の向上を図る。 ICTを利活用した魅力ある授業づくりに向けた取り組みを進める。	B B B	B	B	<p>行事計画をコロナ前・コロナ禍双方を鑑みて計画し、実施することができた。</p> <p>教科指導の充実に向け、公開研究授業を調整し、多くの教員が参観しICTの利活用を中心に参考とする機会とすることができた。</p> <p>校務システムについて、情報の適切な管理と教員の働き方の改善を意識しながら運営することができた。</p>
	情報管理	生徒情報の円滑な管理	校務システムを円滑に運営するとともに、個々の情報の適切な管理を図る。	A			
生徒指導部	生徒指導	基本的生活習慣、学習態度を確立させる指導の充実	身だしなみの指導等において、全教職員が一致した指導を実施する。	B	B	B	<p>今年度から身だしなみ指導強化期間を設定し、授業開始時に一斉点検を実施した。</p> <p>生徒指導が起こった時には学年部を中心に連携して指導を行った。</p> <p>学校祭については準備段階で、引継ぎしきれておらず、課題が残ったが、文化祭、体育祭とも無事に日程通りに終了できた。生徒会は定期的に活動できた。各学年人権学習は学年部の協力のもと実施することができた。</p>
			生徒の実態を的確に把握し、授業規律を確立する。	C			
			各分掌・教科と連携し、生徒指導を実践していく。	B			
	特別活動	自主性・自発性の育成	田辺高校祭を成功させる。	C	B		
部活動を活性化させる。 生徒会・ボランティア活動を活性化させる。			B B				
人権学習	人権意識の高揚及び実践的態度の育成と人間力の充実	生徒の人権意識の向上と学習の深化・定着を図るため、視聴覚教材や外部講師による講演を通じた人権学習を実施する。	B				
進路指導部	進路指導	希望進路の実現	入学から卒業までを体系的に捉え、一貫した指導の下、学力向上に向けた取組を充実させることで希望進路の実現を図る。進学補講・長期休業中の補講を積極的に実施する。	B	B	B	<p>各学年とも希望進路の実現を図るため、平常補講や長期休業中の集中補講等を中心に進学指導を行うことができた。1・2年生の平常補講は実施できておらず、次年度は、ICT等を活用した効率的な平常補講運用を目指す。</p> <p>今年度から1年生に大学・企業見学ツアーを実施し、生徒の進路意識を高めることができた。</p> <p>将来を見据えた職業観を養う指導に努め、就職模擬面接や模試、セミナー等を通して、系統的に指導することができた。</p> <p>生徒の進路決定の一助となるよう適切な時期に保護者向けの進路説明会を行うことができた。</p>
			自己理解を深め、高校生段階での将来を見通した勤労観・職業観を養う効果的な指導を実践するとともに、企業と連携を密にし、就職指導の充実を図る。	B			
			昨年度に引き続き、就職率100%を目標とする。系統的な進路指導となるよう指導の内容については、就職模試や就職セミナー等を通して改善・整理していく。	B			
	保護者との連携	適切な時期に個別面談や進路説明会を実施することにより、進路決定に向けて、生徒及び保護者との共通理解を図る。 各学年1回以上の保護者説明会を実施する	A				

教育推進部	広報活動	中高連携と広報活動の充実	中学生・保護者の本校に対する理解や関心を高めるため、学校説明会や学校公開、施設見学等を実施する。 また、工業に関する専門学科に対するより深い理解や関心を高めるため、様々な教育活動を紹介する。	B	A	B	<p>学校説明会では、かき氷などのプレゼントや、多くの生徒による運営など新しい取り組みで実施し、多くの中学生・保護者に喜んでいただいた。マニュアル等も整備し、来年度も見据えた計画的な運営ができた。</p> <p>Instagram・Twitterを開設し、日々新たな情報を発信した。</p> <p>学習用タブレット端末に関する対応を日々行っている。ICT教育推進会議での意見交流等を行った。</p> <p>計画的に、新しい図書の選定や配架、購入に努めた。 図書館だよりの発行、図書展示を随時行い、時宜に応じた情報発信を行った。 昨年度より電子書籍のサブスクリプションサービスや、新聞データベースの導入をしている。活用について、より研鑽に努めたい。 芸術鑑賞を計画通り実施することができた。次年度の演目について複数業者と検討し、決定した。</p>
			Instagram等を有効に利用し、その活用体制を整えるとともに、生徒の活動を学校内外に広く紹介する。	A			
	ICT教育	ICT教育の推進	学習用タブレット端末を活用した教育活動の推進を図るため、教材研究や授業研究の意見交流並びに、オンライン等による講習会の案内など、マネジメントする。	B			
	読書活動	生徒の図書館利用及び読書活動の推進	購入図書及び各種資料の適切な選定と配架を行う。	B	B		
			新着図書や思考・読書のきっかけになる本について効果的な情報発信・広報を行う。	B			
			図書館が生徒のニーズに応じて機能できるような環境作りに努める。	B			
		視聴覚機器の整備	視聴覚機器を適切に管理する。	B	B		
	特別活動	芸術鑑賞の実施	芸術鑑賞に関心をもって参加できるよう、事前の取組を工夫する。	B	B		
			プログラムの打ち合わせ等を十分に行い、生徒の心に残る内容にする。	B			
			次年度の演目について検討し、適切な時期に決定する。	B			

保健部	健康安全 教育の 推進	健康な心身の育成	健康診断を全項目受検させ、特に心臓・尿検査について精密検査が必要な生徒を全員受診につなげる。	B	B	<p>健康診断については、再三提出を促したにも関わらず、受検しない生徒が若干名いた。</p> <p>SCについては、今年度は昨年度までの追加配当がなかったものの、生徒のみならず、教員や保護者の不安軽減に向けての相談活動を実施することができた。</p> <p>特別支援教育会議では、生徒の心身の健康上への配慮について適切に協議することが出来た。また、支援学校と情報共有し生徒や保護者の対応をすることができた。</p> <p>校内美化については、クリーンキャンペーン等を中心に全校体制で取り組むことが出来た。また、ワックス掛けの用具等を一新し、校内美化に努めることができた。しかし、ゴミの分別やポイ捨て等については、あまり改善されていない。</p>
			相談活動（カウンセリングを含む）や来室生徒への保健指導を適切に実施する。	A		
			特別支援教育会議を定期的に開催し、特別支援教育の視点を活かした指導を推進する。	A		
	校内美化に対する啓発の促進	日常の清掃活動が円滑に行えるように掃除道具の整備・補充を行う。	A	B		
		グリーンキャンペーンや大掃除を定期的実施する。	A			
		ゴミの分別推進、ポイ捨ての防止への啓発を促進する。	B			
工業部	工業教育の充実と発展	各学科、ICTを用いて専門科目の学習内容の充実の検討	教育内容の精査、より効果的な実施方法、より教育効果の高い指導体制について具体的な検討を進める。	C	C	<p>1,2年生が新課程となる中で、従来の評価から新課程に変更するための指導体制の検討が充分でなかった。</p> <p>ICTの活用は、iPadの習得度に個人差があるため、研修内容の検討が困難で実施できなかった。</p> <p>新しく配備された機器を担当した先生は、ある程度理解されていたが、その内容を他の先生と共有するとが課題である。</p> <p>各学科で資格取得、検定合格に積極的に呼び掛け、実施した。学科を超えて、受講者を担当する体制が一部で整いつつある。</p> <p>各学科全体で、競技大会に向けた体制を検討し実施した。</p> <p>京田辺市との連携事業や、大学連携の教授の方々に協力してもらい実施した結果、自分の進路に対して再認識できた。</p>
			ICTを活用できるように、教員個々の能力を上げる方法を検討する。	C		
			産振で配備された機器の取り扱い方や実験モデルなど講習を計画し、実施する。	B		
	各種資格・検定等の取得率向上	資格取得や検定の合格に向け、講習会等におけるより効果的に総括すると共に、計画的に実施する。	B	B		
		各種競技会の実施に向けた体制を整備する	A			
	事業所や大学等における、実際の技術・研究に触れる機会の企画及び提供	事業所や大学等における、就業体験や見学会などを企画・立案・実施する。 事業所の技術者や大学の研究者による講演や実技指導等を計画的に実施する。	B	B		

第1学年部	学習指導 進路指導	学習環境の整備を行い、学力を向上させる 自身の進路選択を明確にする取り組みを行う	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と学習環境の整備を行い、学力向上を図る。 進路指導部と連携をとりながら、自身の進路選択に係る目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	B	B	担任と各教科担当が連携を図り、成績のサポートや欠席状況などの情報共有を行なった。また、今年度初の試みとして、学年から進路指導部に要望し、大学・企業見学ツアーを開催し、生徒の進路意識を高める活動となった。 生徒指導においては、友人関係のトラブルが発端となる指導が多い傾向にあった。校内での人間関係の把握を引き続き行い、トラブルを未然に防げるようにする。学年スローガンは学年集会や行事などのさまざまな場面で積極的に発信し、共通理解のもと指導することができた。	
		規則を守る自主・自律の態度を育成する 自身の役割を認識し、役割を果たすことができる生徒を育成する	社会や学校の規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。 委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。 学年スローガン「明日にでも社会に出れる人になろう～伝統の保持と新たな挑戦～」を意識させ、学年で統一した指導を行う。	B B A			
	配慮を要する生徒への支援	関係分掌との連携、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B				
	学習指導 及び 進路指導	学習環境の整備 学習態度の育成 進路実現に向けた目標の設定 基礎学力の育成	各教科、教科担当者との連携を図り、情報を共有しそれに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。 進路指導部と連携をとりながら、生徒、保護者と面談を密に行い、目標の設定を行わせ、進路目標を明確にさせる。	A C	B		
第2学年部	生徒指導 及び 特別活動	規則を守る自主・自律の態度の育成	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。委員会活動、学校行事等における役割、及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B	B	各教科、教科担当者との連携を図り、成績不振生徒への対応を密にできた。その一方で、進路目標を持つ生徒全員に対し、努力し続けられるように導くことができなかった。 生徒指導件数は、一定数あった。特に、身だしなみ指導は思うような指導ができなかった。 要配慮生徒には、教科担当者会議を開くなど、迅速な対応を行い、統一した指導を行えるよう心掛けた。	
		配慮を要する生徒への支援	具体的な支援方法を模索・構築し、率先して対応する。 関係分掌との連携、要配慮生徒の家庭と連絡を密に行う。	B			
第3学年部	進路指導	学習環境の整備、学習態度の育成	各教科担当者との連携を図り、学習環境の整備のために情報を共有し、それに基づいた各生徒への対応と家庭との連絡を密に行う。	B	B		学習面では、特に成績不振生徒の担当教科と連携をとり単位修得に向けて努力できていた。 生徒指導件数は、本年度指導内容が一部変更になり指導件数は減少した。しかし、身だしなみ指導件数は相変わらず多く、身だしなみ指導は、思うような指導ができなかった。 各種委員会や行事など、積極的に取り組むクラスと消極的なクラスの
	学習指導	希望進路を実現させ、社会人として必要な力を身につけさせる。	進路指導部と連携をとりながら、授業やLHRなどを利用し、生徒に卒業後の自分の進路を考えさせる。	B			
	生徒指導 特別活動	規則を守り、自主自律の態度を育成する。	規則を遵守させるため一致した指導・対応を行う。前年比の指導件数の減少を目指す。委員会活動、学校行事等の役割及び清掃活動などに積極的に参加させ、役割を果たさせる。	B			

	学校行事（研修旅行・文化祭・体育祭）に参加しやすい環境をつくり生徒に手厚い指導を行う。	面談等を実施し、その状況を共有し、行事の楽しさや取り組む喜びを体験させるため、学年全体で取り組む対応を進めていく。	B		差は大きかった。 配慮を要する生徒には、何らかの変化に迅速に対応し、面談や家庭訪問などを積極的に行い問題解決の対応することができたと思う。しかし、進路変更や退学する生徒が出てしまったことに対して力不足（指導力不足）を痛感した。
	配慮を要する生徒への支援に取り組む。	具体的な支援方法を模索・構築し、率先して対応する。 関係分掌・機関と連携し、要配慮生徒との家庭連絡を密に行う。	B		

評価 A：十分達成できている（目標以上の成果があった）

B：ほぼ達成できている（ほぼ目標どおりの成果があった）

C：達成できているとはいえない（成果は見られたが目標には達していない）

D：達成できていない（成果がなかった）